



ヒューマンコミュニケーショングループ ニュースレター
2009年度 No. 2
<http://www.ieice.org/hcg/jpn/>



— Contents —

- ◆ HCGシンポジウム2009開催報告
- ◆ マルチメディア・仮想環境基礎 (MVE) 研究会活動報告

HCGシンポジウム2009開催報告

企画幹事
大野健彦 (NTT)

2009年12月10日から12日まで、HCGシンポジウム2009が札幌コンベンションセンターにて開催されました。シンポジウムは招待講演、オーラル発表、インタラクティブ発表(ポスター+デモ)、研究会による企画セッションで構成され、167名の参加者を集めました。昨年までのHCGシンポジウムは各研究会の合同開催でしたが、本年度からは、シンポジウム独自に発表を募集し、プログラムを編成する形式となりました。HCGの多様性を活かしたシンポジウムとするため、敢えてセッションを研究会別に分けることはせず、様々な発表に出会えるセッション構成としました。これらの試みがどのような結果となるか、そもそも発表が集まるのかなど、実行委員一同、フタを開けるまでは不安も大きかったのですが、無事に終わることができました。これも参加・発表された皆様のおかげであります。

招待講演は原島博氏(東京大学名誉教授)による「科学技術を文化に:その可能性を探る」と、伊藤博之氏(クリプトン・フューチャー・メディア)による「初音ミク as an interface」の2件が行われました。原島氏の講演はそもそも科学とは何かという話から始まり、科学研究のパラダイムが19世紀、20世紀とどのように変わってきたかについて論じ、閉塞感の漂う21世紀において新たな科学パラダイムを生み出すために、これからの研究はどのように取り組むべきかの方向性が示されました。招待講演にふさわしい、重厚な講演でした。

伊藤氏の講演は、YouTubeやニコニコ動画で世間を席卷している、初音ミク(PCに歌のデータを打ち込んで歌わせる、Desktop Musicソフトウェアの一種です)の紹介から始まり、人間とコンテンツの役割がどのように変化してきているか、コンテンツ爆発時代における著作権やビジネスモデルのあるべき姿など、様々なトピックについて述べられました。ソフトウェアを販売するという古典ビジネスモデルに基づく経営を行いつつ、新たなビジネスのあり方を論じるという点が興味深く、今後、コンテンツだけでなく、アプリケーションソフトウェアについてもビジネス形態が大きく変化していくことを予感させる内容でした。

オーラル発表は63件、インタラクティブ発表は25件(10件はオーラル発表と重複)の発表が行われました。インタラクティブ発表は、参加者の投票によるインタラクティブ賞の選考が行われ、「触地図作成システムにおけるランドマーク出力機能の実装」(山口氏ら)、「上位階層からの可視性を持つアイコン貼付型電子付箋紙システム」(有田氏ら)、「社会性報酬の動機付けによるワーキングメモリ性能向上」(川崎氏)の3件が選ばれました。表彰は懇親会で行われ、投票で選ばれた人だけでなく、投票した人も抽選で賞品をもらえるということで、大いに盛り上がりました。

次回は2010年12月15日から17日まで、北から南へ舞台を移し、宮崎フェニックスシーガイアリゾートで開催予定です。HCGシンポジウムをさらに盛り上げるため、皆様の発表を心よりお待ちしております。

マルチメディア・仮想環境基礎 (MVE) 研究会活動報告
<http://www.ieice.org/~mve/>

委員長
中村裕一 (京都大学)

■ MVEの活動テーマ

MVE研究会では、VR/AR/MR技術、ヒューマンインタフェース、マルチメディア等をキーワードにした活動を行ってきました。現在、その多くが独立したコミュニティを持つことから、本研究会はその間を取り持つサロンの発表の場としての機能を果たしてきました。複数の分野にまたがるアイデアを議論する場、新しいシステムを様々な観点から議論する場として活用されるよう、従来から議論の時間を十分にとるなどの運営を行っています。

■ 新しい取り組み

今回は、MVEの存在感をさらに高めるために企画してきた取り組みを紹介し
ます。これらの取り組みに共通することは、萌芽的なアイデアや研究をより良
いものに発展させるお手伝いをすることです。

○ MVE賞 (<http://www.ieice.org/~mve/award.html>)

2007年6月より、毎回の研究発表の中から、新規性、有効性、将来性などの点
で優れているものを選び、表彰しています。減点法ではなく、優れている点を
積極的に評価する方針で選んできました。H19～21年度の授賞件数は、5件、5
件、3件(H22年1月現在)となりました。受賞した学生さんなどから「大きな励
みになった」等の感想をもらっています。

○ メンター制度 (<http://www.ieice.org/~mve/mentor.html>)

2009年6月よりメンター制度を試行しています。発表の場でのコメントだけで
なく、文章の形でもコメントやアドバイスを返し、それによって着想や研究の
進め方、その他優れていると思われる点をさらに伸ばすことが目的です。これ
まで、全発表(51件)のうち希望された発表(16件)にのみ適用してきましたが、
実際にコメントを受けた発表者からは、「大変参考になった」等の良い評価を
受けています。さらに発表者からの質問や依頼などがあれば、その後の研究や
学術論文への進め方の相談相手となる場合もあり得ます。

○ ショート発表と萌芽セッション

萌芽的なアイデアを議論したい場合や、まだ十分な結果が出ていない場合など、
長い予稿を準備できない場合があります。全国大会では短い予稿で発表でき
ますが、発表時間が短いと、十分な議論が困難です。このような問題意識から、
発表は短くても議論の時間を長くとする「ショート発表」とそれらを集めた「萌
芽セッション」を企画しています。2009年11月にはこのような発表が13件集ま
りました。活発な議論が行われる面白いセッションであったとの感想をもらっ
ています。

○ 料理メディア研究会とのコラボレーション

HCGの第三種研究会である料理メディア(CM)研究会と年一回の割合で合同の研
究会を行っています(ただし、研究会の性質上、形式的には全てMVEの発表とな
ります)。2008年1月、2009年11月など、興味深い研究会となりました。お互い
に大きなメリットがあるため、今後もこのような形で交流を行っていきたく
と考えています。

○ 大会企画

MVE分野では、社会的な関心の高い様々な技術やサービスが生まれてきていま
す。そのような技術やサービスについて、学術的な観点からの議論を通じて理
解を深めるために、学会の総合大会やFIT等において、研究会企画を度々提案
しています。2009年3月の総合大会では、「仮想世界のためのコミュニケーション
デザインと品質」と題した企画をCQ研究会と共同で実施しました。この企画
では、SNS、ブログ、セカンドライフといった、仮想世界を媒体とする新しい
コミュニケーションに対して、第一線で研究を進めている企業・大学の研究者
を招待し、講演とパネル討論を行いました。このように、コンテンツ的な話
題を追いつづ、学術的な立場からその技術やサービスを俯瞰するというアプロ
ーチで、今後も様々な話題提供を行って行きたいと考えています。

■ 今後の活動方針

研究の進展や、社会的ニーズの変化に応じて、各研究会の取り扱う分野や、主
要なトピックスは変化していきます。MVE研究会もその使命と方向性を探る必
要があることを痛感しています。2009年3月のHCGシンポジウムでは、「HC研究
の過去・現在・未来～MVE研の事例から～」というセッションを開催しました。
H20年度のHCG委員長でもある佐藤誠先生(東京工業大学)に研究の軌跡をお話
し頂いたり、MVE設立の経緯を再確認したり、他の研究会から見たMVE像を議論
したりと、MVEやHCGの今後を議論するセッションとなりました。MVEの本来の役
割である、「新しいアイデアとそのシステム実装に関する議論の場」である
こと、そのための「理論や技術を持った人の集まり」であることへの期待が語
られました。このような議論を踏まえ、今後の方針について種々の議論を専門
委員会で行っています。MVEの名称をより分かりやすいものに変更することな
どを含め、来年度以降も種々の検討と活動を続けていく予定です。

ヒューマンコミュニケーショングループ研究会・関連行事について、
詳しくはHCG ホームページ <http://www.ieice.org/hcg/jpn/> をご覧ください。



☆e-mailによる情報配信を必要としない方は、その旨henkou@ieice.orgまで会 員番号、
氏名
ご連絡ください。処理に1ヶ月程度かかりますので、入れ違いに、再度情報通信 された場
合は、
ご容赦ください。
(ご連絡いただいた場合は本会、登録ソサイエティ、グループ、支部、からの全 ての情報
配信が
止まりますので、情報配信を再度希望される時も、その旨henkou@ieice.orgま までご連絡
下さい。)

ieice-ieice-ieice-ieice-ieice-ieice-ieice-ieice
(社)電子情報通信学会 サービス事業部
TEL:03-3433-6691 FAX:03-3433-6659